

## 助成金情報

他にも多くの助成金があります。詳しくは、メイトム宗像のホームページ⇒その他リンク一覧をご覧ください。窓口での相談も受け付けています。

メイトム宗像

検索

### 助成金 保健・医療・福祉、社会教育、まちづくり分野など

- 2016 年度地域ささえあい助成

対象	日本国内を主たる活動の場とする生活協同組合、NPO 法人、任意団体、市民団体（生協と団体が協同する取り組み）
申込締切	3 月 5 日（土）※当日消印有効
助成金額	1 件あたりの上限額 100 万円
問合せ	日本コープ共済生活協同組合連合会 渉外・広報部 地域ささえあい助成事務局 TEL：03-6836-1320 FAX：03-6836-1321

### 助成金 学術・文化・芸術・スポーツ分野

- 平成 28 年度「地域の伝統文化保存維持費用助成」

対象	古来各地に伝わる「民俗芸能」ならびに「民俗技術」の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体
申込締切	1 月 29 日（金）※当日消印有効
助成金額	1 件あたりの上限額「民俗芸能」70 万円、「民俗技術」40 万円
問合せ	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 TEL：03-3349-6194 FAX：03-3345-6388

### 助成金 国際協力・交流分野

- 2016 年度国際交流事業一般公募助成

対象	国際理解・国際交流の推進となるような事業（原則 18 ～ 39 才迄の若者が参加対象となる事業）
申込締切	1 月 29 日（金）※当日消印有効
助成金額	1 件あたりの上限額なし
問合せ	公益財団法人 三菱 UFJ 国際財団 事務局 TEL：03-5730-0336 FAX：03-5232-0310

### 助成金 社会福祉、環境、国際協力分野など

- 第 17 回社会貢献基金助成

対象	日本の生活文化と地域社会の発展に寄与することを目的とし、地域の種々の災害の救済、社会福祉事業、環境保全事業、国際協力など社会貢献活動を行う各種団体等
申込締切	2 月 29 日（月）※必着
助成金額	1 件あたりの上限額 200 万円
問合せ	社団法人 全日本冠婚葬祭互助協会 社会貢献基金 運営事務局 TEL：03-3596-0061

### 相談会 福岡県 NPO・ボランティアセンターからのお知らせ

- NPO 事業企画相談

内容	事業の見直し、新規事業のスタート、会員の増加、寄付や助成金の獲得など（担当：NPO法人ミディエイド 宮田智史 氏）
日時	1 月 27 日（水）2 月 10 日（水）3 月 9 日（水） 13:30 ～ / 14:30 ～ / 15:30 ～（1 団体 50 分）
場所	福岡県 NPO・ボランティアセンター（吉塚合同庁舎 5F）
問合せ	NPO 法人 ミディエイド TEL：092-631-4411 FAX：092-631-4413（同センター）

### 相談会 宗像市 市民活動・NPO ボランティアセンターからのお知らせ

- 市民活動・NPO のための広報相談

内容	広報力アップの相談やアドバイス
日時	1 月 23 日（土）2 月 20 日（土） 10:00 ～ 17:00（1 団体 1 時間）
場所	市民活動・NPO ボランティアセンター（メイトム宗像）
問合せ	むなかた市民フォーラム TEL：0940-36-0311（同センター）



## むなかた NPO ボランティア情報紙

# ふらぐ

No. 11

2016 年 1 月発行

テーマ 「まち」  
まちづくりの  
多様性を考える

「ふらぐ」は、NPO・ボランティア・市民活動の実践者を対象とした情報紙として、活動に役立つ情報をお伝えします。今回は「まち」がテーマ。まちづくりや NPO 活動する上でのまちの多様性について考えてみましょう。

## 角度が変わると 宗像がヒカル

宗像在住の外国人は 560 人。その中で宗像に目を向けた活動をしている人は何人いるのでしょうか。宗像が大好きと移り住んだロシア人のマキナ アルビナさん。さつき松原の清掃にも積極的に参加している彼女に、どのように活動に取り組んでいるか話を聞きました。



## つながることは自然なこと

マキナさんに宗像のどこが気に入っていますか？と聞いてみると「海・山・食べもの・人…全部。特にこの岬地区が大好き。さつき松原がとてもきれい」と話してくれました。

マキナさんの生まれ育ったロシアの町は海がなく、冬はマイナス 30 度にもなります。今年は暖かい日が続いたので、例年より長く宗像の海を楽しんだそうです。「この海はとってもきれい！」マキナさんのブルーの目が輝きます。大好きな場所とはいえ、慣れない土地で地域活動をするにはエネルギーがいるのではと思い尋ねると、首をかしげて「勇気はいらぬ」と答えました。「大好きな砂浜に落ちているごみを見つくと、拾って帰ります。きれいにするのが好きです。地域活動も人として自然なこと」と質問に不思議そうな表情を見せました。

マキナさんは自分が好きな日本人に、近いのに遠く感じるロシアの文化を知ってもらいたいと年 2 回ほどロシアのイベントも行っています。ロシアで春を迎える日をお祝いするのに合わせて、宗像でも一年がよい年にとイベントを企画します。

子どもから大人まで楽しめるようクレープを焼いたり綱引きをしたり。去年のイベントではマキナさんの自宅の庭に 150 人が集まりました。



ロシアの伝統的な人形「マトリョーシカ」づくりも行います。建築の仕事をしていることを活かして形づくった木に、絵の具で思い思いのマトリョーシカを描いていきます。

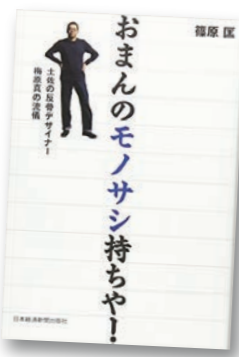
今年は NPO 法人イズバランドを設立し、さらに活動を広げたいと夢を語ってくれたマキナさん。「みんなの笑顔がたくさん見ることができるので、とてもうれしい」と娘のオルガさんや友人と企画を進めます。今は結婚し宗像を離れたオルガさんも「県外に住んでいるので宗像の良さをとくに感じます。何をとっても宗像が一番！いつかは宗像に帰ってきた」と話してくれました。



まず自分たちが宗像の良さを知ること。そこから宗像が活性化していきます。日本の良き文化と思いこんでいた地域とのつながり。つながりは国に関係なく人が求めていることです。外国人のマキナさんの宗像での動きが、「ボランティア」と構えがちな私たちの考えを溶かし、その活動が自然なことと感じさせてくれます。

問合せ NPO 法人イズバランド TEL：0940-62-1330（マキナ）

## おすすめの1冊 私の 推薦本



### 推薦文

「洗練されたデザイン」＝「物事を整理し、伝わるカタチにする」事だと私は考えています。本書に登場する梅原氏は、高知在住のデザイナー。地方の商品開発に携わりヒット商品を生み出し、自治体の総合計画等に関わる事もしています。地方の課題を整理し、本質的な良さをデザインにして発信する事、それは外に発信すると同時に、「これで良いんだ」という自信につながります。

答えは与えられるものではなく、私達の目の前に常にあるのです。それを目利きする力こそが「おまんのモノサン」だと氏は教えてくれています。

### 本の紹介者

りょうへい  
谷口 竜平 さん

本職はデザイン制作や企業・商品ブランディング。市民の生涯学習から地域活性化を行う NPO 法人福岡テンジン大学にて年間 50 以上行われる授業を企画作成するコーディネーターの育成などを行う。



## おまんのモノサン持ちや！ 土佐の反骨デザイナー 梅原真の流儀

著者：梅原 匡  
出版社：日本経済新聞出版社  
単行本 256ページ 本体1,600円＋税 2010年6月発行

皆さんからの 市民活動のお知らせや活動の様子などをお寄せください。  
情報を募集!! [munakata@mcforum.jp](mailto:munakata@mcforum.jp) 「むなかた市民フォーラム」まで

「ふらぐ」は、むなかた市民フォーラムが宗像市市民サービス協働化提案制度において、宗像市と協働で編集・発行しています。

発行/宗像市市民活動・NPOボランティアセンター 編集/むなかた市民フォーラム 窓口時間/8:30～17:00  
住所/福岡県宗像市久原180 メイトム宗像 URL / <http://kouryuukan.com> 休日/ 土・日・祝日  
電話/0940(36)0311 FAX / 0940(37)4101 E-mail/[meitomu@city.munakata.fukuoka.jp](mailto:meitomu@city.munakata.fukuoka.jp)

これからのまちづくり

# 関わるための 仕組みづくり

いつの時代も様々な課題が存在します。それをピンチと捉えるかチャンスと捉えるかで見える世界は大きく異なります。現代社会には、少子高齢化や人口減少、地域社会のつながりの希薄化などから生まれる様々な問題があり解決を求められています。私たちのこれからのまちづくり。その仕組みづくりを考えてみたいと思います。



海岸清掃後の交流会



秋季文化祭／東郷地区コミュニティ

## 地縁型とテーマ型

まちづくりと一言で言っても様々ですが、主体は人です。その人たちがまちづくりに関わる方法には、2つのアプローチがあります。

一つは、「地縁型」のアプローチです。各地区のコミュニティやその中に位置する自治会などで取り組むまちづくりです。宗像市においても、各地区のコミュニティが中心となり、まちづくりを推進しています。一方で、少子高齢化や人口減少、地域のつながりの希薄化などで後継者不足になり、担い手を探すのが大変な地域もあります。

もう一つは、行政区にとらわれず活動する「テーマ型」のアプローチです。子育て・教育・防犯・環境などテーマごとに興味のある人たちが独自でグループを作り活動する方法です。この活動が、地域社会の課題や問題の改善解決の一翼を担っています。

また近年は、インターネットを利用したつながりも生まれました。例えば SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)



多くの人でにぎわう赤間宿まつり

などを利用し、インターネット上でコミュニティをつくり、思いを共有することもできます。このように、つながりかたも時代と共に多様化しています。

## 求められる コーディネータ

まちづくりをする多様な主体が機能し、さらに効果を高めるためには、必要に応じて連携することも大切です。それには広い視野で地域社会の課題を把握し、地縁型やテーマ型で活動する人たちをコーディネートできる中間支援の役割が必要になります。

そのため、中間支援をする人たちは、幅広い知識や情報に加え、行政やコミュニティ、団体の一つひとつと信頼関係を築くことが重要になります。

それぞれの活動とそれを調整する力が、私たちの目指す地域社会の実現には不可欠なのです。



活動相談／市民活動・NPO ボランティアセンター

## ポジティブ × 多様性

まちづくりに参加するには、ボランティアとしてできる範囲の関わりから、NPO の事業として、また企業活動として地域社会の課題を改善解決する方法まで多様

です。そこで大事なことは、まちづくりへの関わりを主体的に前向きな気持ちでとらえることです。

間違っても人が足りないから、担い手不足だからという理由で人集めに走ってはいけません。継続的にまちづくりに関わる仕組みをつくるには、まずは人が集まる魅力あるものをつくる必要があります。

前向きな気持ちになれる「楽しさ、おもしろさ、やりがい」が活動にあるか、自分ごととして考えるための「仕掛けや工夫」があるか。うまく活動している団体には、このように関わる人の思いを汲む動きが必ずあります。課題を課題として捉えるだけでは、そこに関わろうという気持ちにはなれません。いかに前向きなものに変換できるかが、これからのまちづくりの鍵になります。



異年齢が集まる体験活動

決してこれからの時代を悲観することはありません。いろいろな課題がある今だからこそ、新しい仕組みを作り出すチャンスなのです。必要に応じ、協力、協働しながら、一人ひとりがそれぞれの活動を実践していくことで、その地域にふさわしい方法やまちづくりのあり方が見えてきます。



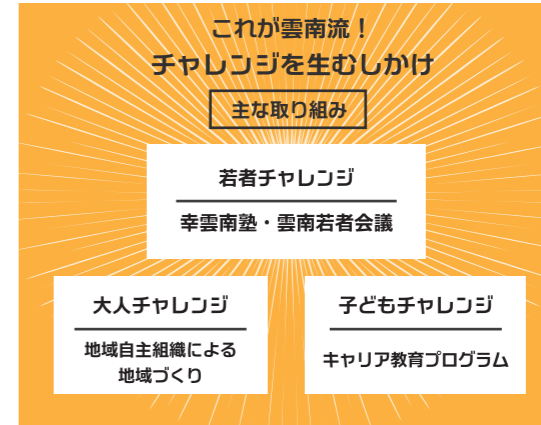
# 日本の25年先の高齢化社会をいく中山間地域 島根県雲南市はまちづくりも最先端

課題解決先進地である雲南市では若者主体のチャレンジが次々と生まれてきています。そして若者チャレンジの運営を担うのが NPO 法人おっちらポ。雲南市が NPO と協働で実践するまちづくりを取材しました。

## 若者チャレンジ シンポジウム雲南塾

幸雲南塾は若者チャレンジの核となる取り組みだ。地域貢献を志す若者のチャレンジを支援することを目的に平成23年から始まった。過去4年間で総勢60名が卒業し、事業の実現につながる事例も生まれている。5期目となる今期からは、実践家を目指す『幸雲南塾』と、地域づくりのはじめの一步を踏み出す『ラボアカデミー』の2本立てのプログラムにリニューアル。参加

全国14の地域で幸雲南塾のノウハウを取り入れた姉妹塾が開催されている。またこの取り組みは全国に拡大中。者は公募により選ばれた18人。6月から10月まで計5回、ゲスト講師によるセミナーやプラン立案のためのグループワークでアイデアを具現化させていく。完成したプランは11月の最終報告会で発表。ただの発表で終わらず、訪問介護事業やカフェの創業など卒業生は自らのプランを実現につなげ着実に成果を残している。またこの取り組みは全国に拡大中。



左) NPO 法人おっちらポプロジェクトリーダー糸原るいさん  
右) 島根県雲南市政策企画部政策推進課チャレンジ創生グループ 須山雄介さん。シェアオフィス「三日市ラボ」にて。

お互いの目線「協働してどうですか？」

## NPO × 行政

雲南のために何が必要かを考え、それを行政に提案して事業を実施しています。提案を受け入れてくれる雲南市の存在はとても大きいと感じています。

とてもいい関係が作れていると思っています。対峙するのではなく、同じ目的に向かって同じ目線で一緒にアイデアを考えていける関係があります。

### NPO 法人おっちらポ

幸雲南塾卒業生が中心となり 2013 年に設立。常勤職員は 4 名。幸雲南塾や三日市ラボなどを行政からの委託で運営。団体名は方言の「おっちら」とラボを組み合わせる。



幸雲南塾の報告会のワンショット。塾生が地域課題を解決するアイデアを発表し最優秀賞が選ばれる



三日市ラボの2階シェアオフィススペース。電気屋だった古民家を改修し 2015 年 5 月にオープンした



### 島根県雲南市

島根県の東部に位置し人口は 4 万人程。日本の課題解決先進地となるべく、若者の力を活かしたチャレンジを推進する。プラチナシティにも認定されている。



三日市ラボがある木次町の町並み。この場所に賑わいを取り戻そうという若者が増えてきている

## 中山間地域「雲南市」

雲南市は今から11年前に6つの町村が合併して誕生した。高齢化率は日本の平均を大きく上回る約36%。日本の高齢化率がこの水準に達するのは25年の平成52年。これから日本全体が直面していくであろう課題にすでに取り組んでいる地域である。その雲南市が力を入れているのは人口の社会増。そのため秘策が、住民主体のチャレンジの促進だ。子どもチャレンジ、若者チャレンジ、大人チャレンジの3つの舞台が用意されている。子どもはキャリア教育プログラムなどにより地域への愛着心を高め、高校生以上の若者は幸雲南塾や若者会議などで地域課題を解決するアイデアを考え実践できる環境がある。「雲南市の課題を見つけてチャレンジしてほしい」と市職員の須山さんはこの取り組みに期待を寄せている。